

■ やわらかく、しなやかな想像力／向日性

樺太の犬の尾ふときを思いおり冷えた鼻先毛布にうずめて
 リコーダーを洗えば水は弧を描き春のひかりのうたあふれだす
 帰還せし宇宙飛行士の心地してプールサイドに身体引き上ぐ
 新幹線に関所なけれど停車のたび裡なる馬に水を吞ませる

■ 特異な感覚、視線／美術への親しみと静謐なまなざし

鏡には映らぬ声と思いつつ睡蓮の色の口紅を引く
 ムンクの「叫び」の目から鼻から泡立ちて蓮根天麩羅からりと揚がる
 鼻と指は失いやすき浮彫^{レリーフ}の後姿を見せない女神
 始まりに湯を沸かすときレスネスの農場の朝の煙突おもう

■ 家族への情愛、とりわけ父への深い思い

胸の裡に青い金魚が棲みついて振り返るとき父と思えり
 急性期にあるとう父の肺癌に白血球のごと集まるわれら
 ボラードに繋がる舟が離れゆく舳の綱はゆるく解けて
 初めての親の襦袢を買いに行く秋の日夫は僧の目をせり
 海老チリを食せばいつも祖父は言う蟬の抜け殻食べし戦地を

■ 孤独感と不安、達観

晴れたなら誰か来て泣く椅子がある 海に向く椅子、花に向く椅子
 一度きり遠泳のような人生の独り果てまで泳ぎきる海
 憩室がわれには二つあるという 自分の部屋を持たぬ私に
 人はみな木漏れ日だから揺れていい地球がふいに自転やめても

■ かすかな悪意、不穏なストーリーの挿入による立体感

・「義母」への反発↓「あなたの前で泣いたりしない」 55 ・連作「R41」 147